

国語 第1学年 おもい出して かこう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：一年間で印象に残った出来事を選び、初め・途中・終わりの順を考えて書く。楽しかった行事名の一覧にせず、自分がしたこととそのときの思いが相手に伝わる出来事に絞る。B(1)イの学習として、一年間の思い出の文章。出来事の絵メモ、順に並べた構成、文章を残し、読み手の質問で付け加えた所を分かるようにする。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、伝えたい思いが明確になるよう、出来事の順序に沿って短い文章の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)イの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：一年間の思い出の文章を残す。出来事の絵メモ、順に並べた構成、文章を残し、読み手の質問で付け加えた所を分かるようにする。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)イに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：行事名を列挙する。思い出した順に書き、時間の順序が入れ替わる。これについて、自分がしたことを絵や短いメモにし、起きた順に動かして並べる。写真がなくても思い出せるよう学校の掲示や活動記録を手がかりにする。書けない児童は口述を教師が聞き、文にする。〔知識及び技能〕(2)ア・〔知識及び技能〕(1)カとB(1)イを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「そのとき、初めに何をして、その後どうなりましたか。順番に並べると、いちばん伝えたいことが伝わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)イに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：一年間の思い出の文章は紙に記録できる。出来事の絵メモ、順に並べた構成、文章を残し、読み手の質問で付け加えた所を分かるようにする。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)イの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)イで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：一年間の全ての行事を書かせるのか。

返し：B(1)イでは思いが明確になる構成を考える。網羅する必要はなく、自分が伝えたい出来事を選び、その中の順序を捉えて書く。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「そのとき、初めに何をして、その後どうなりましたか。順番に並べると、いちばん伝えたいことが伝わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)イに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

